

平成 28 年度完了後の評価 中部森林管理局事業評価技術検討会 議事概要

- 1 日 時：平成 28 年 7 月 20 日（水） 13 時 20 分～14 時 55 分
- 2 場 所：中部森林管理局 局長応接室
- 3 出席者：事業評価技術検討会 小野裕委員、新堀健二委員、田中隆文委員  
中部森林管理局 森林整備部長、計画保全部長  
森林整備課長、森林整備課課長補佐  
技術指導官、造林係長  
経常監査官、監査係長
- 4 内 容：事務局及び説明員から、今回の事業評価の対象である完了後の評価（1 地区）の事業の概要・目的、費用対策効果分析等の評価項目について説明を行い、これらに対し委員から意見を聴取した。主な意見・質問は以下のとおり。

森林環境保全整備事業「中部山岳森林計画区」

（委員）評価個表に記載されている「重視すべき機能（水源涵養等）の区分に応じた良好な森林」の区分とは、水源涵養便益、山地保全便益等の便益の区分のことか。

（局）ここでいう区分は森林の機能類型の区分を指している。事業評価マニュアルの便益区分と混同されないように工夫して記載したい。

（委員）路網整備について、事業概要図では間伐材を使用し、低コスト化の改良工事を説明しているので、評価の個表に記載すべき。また、路網整備は土砂流出や地表流といったデメリットもあるが、それをうまく押さえながら林道を開設していることも強調した方がいい。

（局）評価個表にご指摘を反映したい。

(委員) 林道開設の場合、改良工事と同様土砂を抑止するために間伐材使用の構造物を設置することもあるのか。

(局) 地形的に山側からの土砂の崩落を防ぐ必要が認められる箇所では、間伐材を含めた木材を使用した構造物の設置も実施している。

(委員) 最近ニホンジカ等に対し鳥獣対策が行われている。鳥獣対策に費用を掛けていると思うが、それに対する便益はどこに計上されるのか。

(局) 本計画区ではそれほどシカ被害が出ておらず、一部防護柵などの設置を行うこともあるが、全体の費用の中ではとても小さい。

なお、現行の事業評価マニュアルの中では、獣害対策に係る便益が想定されていないため、マニュアルの改正が必要と考えている。林野庁へその旨伝えたい。

(委員) 地元との関係について、林業就業者の人数が挙げられているが、この人数は国有林で雇用した者の人数か。

(局) 長野県の林業統計を出典としており、国有林だけでなく民間の林業に従事している者も含まれている。

(委員) 製材工場や木質バイオマス発電所が増えると、原木の取り合いになってしまうのではないかという危惧の声を聞いたことがある。木質資源を長期的に安定して供給していける見通しなのか。

(局) 伐期に達した山が増えている状況にあるので、人工林からの木材供給は増えてくると考えている。バイオマス用の低質材が不足し、製材用の材も燃やし、需給のバランスが取れていないという声の本計画区以外の地域においてあることは聞いている。

(委員) 土砂流出防止便益の評価方法は、流域の末端に砂防ダムがある場合に成り立つ式であると考えている。そのため、土砂を1 m<sup>3</sup>保全するための単価に

については、土石流待ち受け型の砂防ダムの数値も含め平均値（砂防便覧の数値）が使用されているとのことであるが、土石流待ち受け機能も森林の効果として取り込むこととなるのはいかがなものか。

河床を安定させる治山谷止工の建設コストを採用した方がいいのではないか。

（局）砂防ダムの建設コストのデータが公開されているので、それを援用している。

各便益の評価方法は、林野庁において毎年改善の検討が行われているので、先生の問題意識を林野庁へ伝えてまいりたい。

（委員）炭素固定便益では、成立した森林の土壌中に炭素が蓄積されていることは評価していないのか。

（局）森林の成長に伴い土壌が形成されて、炭素が固定されることは計算されておらず、浸食により土壌が流出せずに固定されることを評価している。

（委員）森林土壌蓄積分の算定で、土壌炭素の固定量が、30cm 深のところの炭素含有量を使って計算されているものと考えられるが、A0 層の部分が含まれておらず、炭素量が過小評価されているのではないか。

（局）炭素固定量の計算は、京都議定書に基づく森林吸収量の報告に当たり森林総合研究所が綿密に調査したものを基にしている。

なお、便益の算定は、一般に控え目な評価を行っている。

（委員）雨量データについて、12 ページの 100 年確率時雨量（mm/h）で中部森林管理局「治山事業執務提要」雨量強度表を出典としているが、この出典はいつ頃のデータを基にしているか。

また、年間平均降雨量はいつの数字か。使用する年間平均降雨量の観測地点が木曾平沢なのはなぜか。評価個表には木曾地域の表記はない。

（局）100 年確率時雨量は 30 年ほど前のデータである。最近であれば時間 100mm という雨が日本中で毎年のように観測されているので、もっと大きい数字

でもおかしくはないと思っている。

年間平均降雨量は直近の過去5年間の数字である。現在価値化する関係で、直近の数字を使っている。森林整備事業の事業箇所が、この地域に集中しており、この近くの気象データとして、木曾平沢という観測地点のものを利用した。評価個表にその旨記載したい。